

看護 青い森

vol.
111
発行日
2022. 1. 15

新年のご挨拶

公益社団法人青森県看護協会 会長 梶谷京子



新年あけましておめでとうございます。会員の皆様にはお健やかな新年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

今年の干支は、十干が「壬(みずのえ)」、十二支が「寅」の年にあたるので、干支は「壬寅(みずのえとら)」とのことです。

「壬寅」は厳しい冬を越え、芽吹き始め、新しい成長の礎となるイメージですが、今年こそ穏やかな、そして虎のごとく力強く、発展的な一年になることを期待します。

昨年は新型コロナウイルスによる感染拡大、そして東京オリンピック、パラリンピックと激動の一年でした。感染拡大は弱点を突き変異を続け、オリンピックは開催困難かと思いましたが、国家の英知を結集し閉会を迎えた感があります。

医療や公衆衛生の現場では、病床数の確保と入院調整など、マンパワー確保の課題は大きく、新たな問題が数多くあふりだされた日々でした。その様な中で、第1波から第5波まで、知識と行動を進化させ、看護は対象となる方々の命を守るために精一杯努めました。厳しい現場で改めて看護を見つめるという時間になり、原点回帰とも言われました。

社会全体が痛みを伴うなかで、命の危機と隣合わせで、

面会ひとつをみても看護を提供する形を変えざるを得ない日々で、それは現在も進行中です。

しかし私達は人口構成が激変する2040年に向けて歩みを止めるわけにはいきません。2年の間停滞した地域包括ケアを、いよいよスピード感を持ち推進する必要があります。地域の看護力を向上させ在宅にシフトするには、更なる連携の充実が必須です。

5疾病6事業(感染対策事業が新たに加わる)を踏まえて、しっかりと地域を捉え、地域と向き合い、地域と共に創造する保健医療の提供が求められます。このことは改めて病院の役割を見直すことであり、看護のあり方、看護師の役割を再確認し進化させる必要があります。即ち医療提供体制のあり様が地域の姿を創ることにつながり、人々に寄り添いその中心に看護は座していると考えます。

病床利得という概念があり、ピンチはチャンスといえます。困難を力に変えて明日の看護を築くために、本会は皆様と共に行動して参ります。

本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

2022年度(令和4年度)青森県看護協会 改選役員の立候補受付について

青森県看護協会では、定款第22条、第23条及び定款細則第6条、第7条、第9条に基づき以下のとおり改選します。

これに伴い、立候補しようとする方は、正会員5名以上の推薦を受けて、総会2か月前までとなる令和4年4月18日(月)までに青森県看護協会総務課まで届け出てください。届出に係る用紙は総務課までお問い合わせください。

- 会長 1名
- 助産師職能理事 1名
- 看護師職能I理事 1名
- 地区理事(東青支部) 1名
- 地区理事(中弘南黒支部) ... 1名
- 地区理事(西北五支部) 1名
- 地区理事(北下支部) 1名
- 監事 1名

2023年度日本看護協会代議員および 予備代議員の立候補受付について

青森県看護協会では、以下のとおり2023年度日本看護協会代議員・予備代議員の選出を行います。

これに伴い、立候補しようとする方は、正会員5名以上の推薦を受けて、総会2か月前までとなる令和4年4月18日(月)までに青森県看護協会総務課まで届け出てください。

代議員：9名 ・ 予備代議員：9名

立候補に際しては、代議員としての抱負を含む立候補理由を120字以内にまとめて添付してください。届出用紙については青森県看護協会総務課までお問い合わせください。

令和3年度 会員数 8,659人 (昨年1月比 -66人) (令和4年1月7日現在)	保健師 241人 昨年1月比 -13人	助産師 323人 昨年1月比 +2人	看護師 7,749人 昨年1月比 -39人	准看護師 346人 昨年1月比 -16人
---	------------------------	-----------------------	--------------------------	-------------------------

「まちの保健室」事業が終了します

まちの
保健室



当会では、訪れる人々との交流を通じて、看護職の立場から利用者の健康づくりに貢献することを目的とし、平成19年度から「まちの保健室」事業を実施してまいりました。これまで、3地区で定期的に行ってきた「まちの保健室」ですが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、令和2年度・3年度は休止しておりました。今後の活動について、方向性を協議した結果、協力することが難しくなった協力員が続出したこと、これまでの活動で県民の健康増進に大きく貢献できたこと、看護協会として、看護職が持つ専門性・スキルを新たな形で提供していきたいと考え、「まちの保健室」事業を終了することといたしました。

現在在籍する60人の「まちの保健室」協力員の方々、所属施設の関係者の皆さま、これまで協力員として共に活動していただいた方々及び関係者の皆さまに改めて感謝申し上げます。

リーダー3人から一言

「県看護協会OG会員の自己実現活動」

鱈ヶ沢海の駅わんど リーダー 対馬 庸子

事業目的「まちの保健室を訪れる人々の交流を通じ看護者の立場から住民の健康づくりに貢献する」と掲げられた「海の駅わんど」（鱈ヶ沢町）は平成25年4月に華々しくデビューした。目的に賛同し活動を共にしてくれた協力員は令和3年で27名（保11人・助3・看13）を数え、その内OG19名、居住地も多様で鱈ヶ沢町11・五所川原市10・他はつがる市、中泊町、弘前市より使命感と生きがいの高い志で通勤(?)していただき頭の下がる思いであった。実活動は平成25年から令和元年までの7年間で概算延べ210回開催され、集客数は延べ7000人超1協力員の出勤回数は約31回である。看護協会事業の中でも、数少ない地域住民密着型の活動と捉え「やりがいがあり楽しい」「自分もまだ役に立てる」等と輝き続けた約30名の淑女同志に心より深謝いたします。



ゆ〜さ浅虫 リーダー 千葉 悦子

訪れる人々との交流を通して看護職の立場から利用者の健康づくりに貢献することを目的に、協力員として役割を担ってきた。利用者が気軽に相談しやすい場にするために協力員から声がけするようにした。そうすることで、だんだんまちの保健室の看板に目を向ける人も増えてきた。血圧に関する相談が多かったが、家庭内のもめごとを10分位話し、満足されたのか「今度また来てもいいですか」との声も聞かれた。市営バスを利用し、駅近くの足湯に浸かった後、まちの保健室に来て血圧測定し、帰りのバスの時間までコミュニケーションを求めて利用していた方もいた。市内の病院を選ぶにあたり、まちの保健室で相談しようと思っていた方もいた。このことにはびっくり。最高の喜びであると同時にプロとして役割を果たすためにも生涯学習に励まねばと心新たに。施設の担当者の方々もとても協力的で、館内放送でお知らせもしてくれました。私達協力員は大変良い環境で事業を行う事ができました。関係者の皆さまに感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。



八戸ポータルミュージアムはっち リーダー 木村 亮子

はっち「まちの保健室」は、平成25年に県内3か所目として開設しました。看護協会の目的に賛同し、地域住民及び利用者の健康づくりに貢献したいという退職者、現役看護学校教員、病院勤務者が担当しました。ピーク時には年間3,000人以上の利用者が訪れました。高齢女性、リピーターが多かったが、2割は初回利用者でした。受診を勧められて命拾いした、笑顔で話を聞いてくれる場所があって感謝、担当医と違い気軽に利用でき相談しやすい、来るのが楽しみとの声に、協力員としてやりがいを感じました。利用者実態調査の県学会での発表、看護大学の保健師養成課程の学生実習も受け入れました。協力員同士が講師となり研鑽を積み、意気揚々だった矢先のコロナ感染拡大。対話型の個別相談事業は感染拡大防止の観点からも厳しい対応が求められ、中止、廃止となりました。道半ばの思いですが、住民の健康増進、地域貢献は果たしたと確信しております。会場提供等ご協力頂きました八戸市、協力員の皆さま他多くの皆様に感謝申し上げます。



青森県看護協会「まちの保健室」の経緯

平成13年 日本看護協会の「地域保健モデル事業」として補助金を受け県立保健大学山本教授が取り組む。青森市のヘルスプロモーション事業と並行し地域をつなぐ「道の駅」を拠点とした「ゆ〜さ浅虫まちの保健室」を開設

平成16年 財政難のため青森市からの支援が打ち切られる

平成18年 山本教授から看護協会の事業として引き続き継続して頂きたい申し入れあり

平成19年 ゆ〜さ浅虫「まちの保健室」事業開始

平成24年 看護協会三八地区会員より八戸市に「まちの保健室」を立ち上げたいとの要望あり
平成14年度から独自で活動していた鱈ヶ沢地区の「海の駅保健室」にも声掛けし、共に活動していただくこととした

平成25年 はっち「まちの保健室」・海の駅わんど「まちの保健室」開設

平成27～29年 サンロード青森でも開催
*令和2年・3年 新型コロナウイルス感染が拡大していたため、開催施設からの要望等もあり、開催を見合わせ。

◆H25年度からの実施状況

	青 森		鱈ヶ 沢		八 戸	
	延べ利用者数	回 数	延べ利用者数	回 数	延べ利用者数	回 数
H25年	1,339人	33回	1,104人	28回	2,314人	52回
H26年	1,023人	35回	1,134人	29回	2,779人	49回
H27年	817人	34回	1,447人	29回	3,096人	52回
H28年	236人	16回	647人	30回	2,362人	51回
H29年	251人	16回	597人	31回	2,208人	47回
H30年	120人	16回	544人	27回	1,374人	36回
H31年	73人	16回	621人	30回	1,303人	36回

*R2・R3年は開催中止

*協力員から残念という声、お電話、感謝のお手紙等いただきました。本当にお世話になりました…。また、新たな形で検討をすすめておりますので、今後もよろしくお願いいたします。



感謝のお手紙

オンライン開催

医療的ケア児保育普及啓発フォーラム 開催

11月15日(月)、保育所等の医療的ケア児受入れ促進を目的に、県からの委託事業でフォーラムを開催しました。

青森県立中央病院の網塚先生のお話、医療的ケア児を受け入れている保育所、保護者からのお話を聞き、意見交換。

「医療的ケアが必要な子どもが、他の子と同様に保育園に行くことは、特別な事ではない。まずは、受け入れてみてほしい。地域みんなで育てましょう」と新宮団地こども園の木村園長さん。他のパネリストのお話も、とても心に響くものがあり、医療関係者、行政、保育所、学校…地域みんなで支えていく必要性を強く感じたフォーラムでした。



Resource nurse

令和4年度の新規事業として、「青森県看護協会リソースナース事業」を実施します。

この事業は、看護職の質向上及び県民の健康づくり等に貢献いただける人材として、リソースナース事業へご登録いただき、その高い専門性を活かしていただきたい!! という目的で実施する予定です。

詳細につきましては、これから各施設へ郵送しますので、専門看護師、認定看護師、認定看護管理者等の皆様是非ご登録をお願いします。



「看護職の連携強化に向けた研修会」を開催しました！

令和3年12月23日(木)に、「治療と仕事の両立支援」をテーマに四職能合同の『看護職の連携強化に向けた研修会』を開催しました。初のオンライン開催でしたが、医療機関や訪問看護ステーションの看護師、行政保健師、産業看護職など70名が参加しました。

講演では、産業保健総合支援センター産業保健相談員及び青森県産業看護者協会会長である千葉敦子氏より「治療と仕事の両立支援を活用しよう」をテーマにお話いただきました。両立支援の取組例や、福島県での実態調査結果など具体的な現状をお聞きする機会となり、両立支援制度や活用方法、看護職の連携の必要性を再確認することができました。

話題提供では、三沢市立三沢病院のがん化学療法認定看護師の中村有美子氏より、病院看護の立場から化学療法を継続しながら生活する方への支援について、日本原燃株式会社保健師の佐藤洋子氏より、産業保健の立場から治療を継続する従業員の働きやすい環境を作るため企業における支援方法等についてそれぞれお話しいただきました。お二人の具体的な実践例は、参加者それぞれの立場で両立支援に何が必要なのか考えるきっかけとなったようです。

今回は、オンライン開催のため、参加者同士の情報交換



は難しかったです。アンケート結果では、講演・情報提供とも「参考になった」と回答したこと、また「産業保健を知る機会となった」「医療機関の取組がわかった」などの感想も多くあり、学びの多い研修となったようです。このような研修会へ多くの方々にご参加いただき、看護職間の連携強化のための取組を共有したいと思っております。

今後も保健師職能委員会の企画研修にご参加をお待ちしています。

記：保健師職能委員会 委員 佐藤 愛美



災害時小児周産期リエゾン 助産師2人目誕生！

11月11日と25日に災害時小児周産期リエゾン養成研修を受講しました。

災害時小児周産期リエゾンとは、災害時に都道府県が小児・周産期医療に係る医療救護活動の総合調整を適切かつ円滑に行えるよう、保健医療調整本部において被災地の医療救護ニーズの把握、保健医療活動チームの派遣調整等に係る助言及び支援を行う県災害医療コーディネーターをサポートすることを目的として県により任命された人です。

研修では、災害時小児周産期リエゾンの活動内容を学び、またグループワークでは、産科・小児科医師とともに青森県における災害発生時の活動内容について考えました。これらを通じて、災害発生時の小児周産期医療の現状と課題



を共有でき、災害時支援に向け、有意義な話し合いを行うことができました。

乳幼児や小児、妊産婦は災害時要配慮者となり援護が必要になる場合があります。新生児・乳児や医療的ケア児であれば、養育者を含めて適切な支援が必要となります。

今後は、災害訓練に参加し、災害発生時にしっかりと周産期における母子支援ができるよう、さらに準備していきたいと思えます。

記：助産師職能委員会 委員

三平留衣子



看護師職能委員会 I・II コーナー



看護師職能委員会 I 報告

「介護施設で働く看護師の病院見学」について

11月4日(木)介護施設で働く看護師と病院で働く看護師の情報共有・連携の強化を目的に、上十三圏域の2施設(十和田市立中央病院・三沢市立三沢病院)の協力を得て研修会が行われました。6名の参加者で2グループに分かれて実施しました。

三沢市立三沢病院では、機械浴、全身の皮膚観察について説明を受け、その後褥瘡処置等の見学をしました。

また、退院が近いストーマ造設患者のシャワー浴について、パウチをはがすところから貼付するまでの指導を見学しました。

十和田市立中央病院では、午前中はリネン交換や、体位変換、カテーテルの管理等、午後は皮膚排泄ケア認定看護師とともに褥瘡の処置、ストーマ処置などの見学ができ、

普段接することのない処置だったのでとても勉強になったとの声が聞かれました。感染については、シーツ交換時に床にシーツを置かないようにするとか、手指衛生のタイミングは、その都度処置前後実施すること等、病院と介護施設の違いに気づき施設に帰って情報共有したいとの声が聞かれました。

以上のことから今回の病院見学研修では、多くの学びがあったと感じました。それぞれの看護師が役割を理解し、切れ目のない看護を提供できるよう連携強化に努めていきたいと思います。

見学させていただいた十和田市立中央病院、三沢市立三沢病院の皆様にご心より感謝いたします。

記：看護師職能委員会 I 委員長 佐々木恵美子



見学スケジュール



令和4年度も地域を変えて実施予定ですので、興味のある方は是非ご参加ください。

1日介護施設見学ツアーを実施しました!

10月14日に医療機関の看護師を対象に介護施設見学ツアーを開催しました。このツアーは昨年度から開催され今年で2年目となります。

今回は中弘南黒圏域で開催しました。参加者は7名で2グループに分かれ、特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、有料老人ホームを見学しました。

各施設見学では、施設の隅々まで見学し利用者の退院後の生活をイメージすることができました。それぞれの施設によってさまざまな工夫があったり、特徴的な設備があったり、「施設」と言っても同じところはありませんでした。また、施設で働く看護師の役割や業務についても説明していただき、参加者からは多くの質問が出され時間いっぱい意見交換することができました。

見学ツアー後はアートホテル弘前にて参加者と看護師職能Ⅱ委員とで意見交換を行いました。参加者からは「今後の退院調整に役立てていけそう」、「医療機関と施設との間で利用者の思いや看護をつないでいく必要があると感じた」、「他のスタッフの指導にも役立てていきたい」などの感想が聞かれていました。

地域包括システムを推進していくためには、医療を提供する場の医療機関と生活の場の介護施設とが円滑にサービスや情報を共有し移行することが重要となります。病院と施設で働く看護師がお互いの役割を理解しながら連携できるような企画を今後も計画していきたいと思えます。皆様のご参加をお待ちしております。

記：看護師職能委員会Ⅱ 委員 奈良岡由佳



見学後の意見交換の様子



参加者の声

独立行政法人国立病院機構弘前病院
看護師 堀 籠 ゆ き

今回、特別養護老人ホーム、老人保健施設、有料老人ホームを見学させていただきました。生活の場の中心となる施設では、利用者の日々の体調変化に合わせた食事変更、自助具の選択など細やかな対応を行っていました。また、以前よりも医療ケアが必要な入所者が多くなっている現状でした。そのため、医療設備が少ない中で、適切なアセスメントを行えるよう多職種間で知識の統一を図っている事を知りました。また、医療の多様化に伴い選択肢が多く、今後ターミナル期を迎える利用者や、ご家族への意思決定支援する際の困難さも知る事ができました。

病院で勤務する者として施設に退院するにあたり、生活する場に戻る事を想定した情報提供を行う事や、入院中から患者や家族が今後について考えられるような関わりが大切だと感じました。当日お忙しい中、丁寧に対応してくださった職員の皆様へ心より感謝申し上げます。

鷹揚郷腎研究所弘前病院
看護師 福 井 智 美

今回、有料老人ホーム、介護老人保健施設、特別養護老人ホームの違いは何か、そこで働く看護師の役割を実際に見たいと思い「1日介護施設見学ツアー」に参加しました。施設によって特徴があり、入浴方法や食事面、部屋の設置物の違いがありました。

しかし、統一していることは利用者の方々の「生活の場」であるために安全で安心できる環境作りをしていることでした。施設看護師の役割、業務としてバイタルチェック、内服管理、医療処置、病院受診の付き添い、看護記録等があり、どのような方法で施行されているのか理解できました。

当院では、退院後は施設入所となる患者さんが増えているのが現状であり、慢性疾患が多いため退院後も通院が必要となります。継続した看護のためには施設看護師との連携は重要であると再認識しました。

新型コロナウイルスワクチン接種業務レポート

当初、ワクチン業務の求人が出始めた時は、なかなか従事してくれる方が見つからず電話をかけては断られの連続でしたが、コロナ感染者が増えワクチン接種の重要性が進むにつれ「長い空白があるが経験を活かしたい。」という声次第が増え、ご協力をいただけることができました。

12月10日現在、296名の方がこの業務にご登録をいただいております。そのうち206名の方が実際にワクチン接種業務に従事され活躍されています。今回は八戸市在住の匿名希望さんから従事したお話を伺いました(*▽*)

臨床経験8年6ヵ月 八戸市在住匿名希望（看護師）さん 59歳

◆接種業務を志望したきっかけ・動機

全国的に、日常が制限され息苦しかった。その状況を早く収束させたい思いで応募しました。

◆接種業務に従事するにあたって気を付けたこと

自身はもちろん周りの方々の感染に対する防護の仕方を常に意識して学び、実践しました。青森県看護協会ナースセンターのワクチン研修を受講したことも大きな学びとなりました。



研修の様子

◆業務の内容や他の従事者との連携について

それぞれの会場でチームを組んで業務を行いましたが、常に良い連携がとれ、薬液充填、ワクチン接種、受付、事後観察など一連の業務全般に従事することができました。

◆接種する方への対応で気を付けたことは

緊張している方、特に若い方は迷走神経反応で倒れる方がいるので、なるべくリラックスできるような声かけや、事前にベッド臥床での接種を提案したり工夫しました。

高齢の方々に、持病や薬の話などをしてくる方にも、わずかな時間ですが、コミュニケーションを取り、安心して接種を受けられるよう心掛けました。

ワクチン接種業務に参加しての感想

30年の空白がありましたが、それまでの臨床経験や、事前研修のおかげで問題なく役割をこなせ、今後も何かの役に立てるのではないかと、自信にもつながり、一歩踏み出せたように感じました。参加して良かったと思います。

就業準備金(3万円)について

※本事業は終了しております

今年度、日本看護協会から委託され「新型コロナウイルス感染症に係るワクチン接種人材確保業務」を実施しました。

潜在看護職等の就業支援をすることを目的に、ナースセンターへの求職登録・研修受講・ワクチン接種業務への従事が給付の要件です。

令和3年12月16日までに、196名の方々が給付申請を行いました。多くの皆さんに協力して頂き、ありがとうございました。

ナースセンターより

今回296名という多くの方にご登録いただきました。ワクチン業務以外への就業にも結びつくように、引き続きサポートしていきます。

復 職 支 援

I. 学研メディカルサポート(eラーニング)を活用した復職支援研修はじめました!

今年度、青森県ナースセンターでは、学研メディカルサポートeラーニング研修を導入しました。全10コース73テーマ+8テーマのチェック動画があり、スマートフォンやタブレットでも学習することができます。

- バイタルサインから患者の現状と未来を見抜く
- 心電図への苦手意識をなくそう
- 初めての吸引でも自信をもって行える(チェック動画)
- 認知症患者に対するアセスメントとケア などたくさんのテーマがあります。

令和3年度は
35名の方が受講
しています!!

受講者の方からの声

- 自身が学んできたときに比べて言葉や、接遇等学ぶ範囲が広がってきているように感じます。
現在の学習を知ることが出来たのは、大きな収穫です。
- 基礎知識を再認識できることも非常に良いと思う。
- 始めたばかりです。3か月かけて、すべてを受講するつもりです。



令和4年度はコースを更に増やし実施する予定です!!
ぜひチャレンジしてみてください。

II. 私の就職ストーリー

～他職種から看護職へ～

免許取得後、看護師としてではなく他職種で働くことを選び10年。でもやっぱり看護の道を選んだ藤田さんを紹介します。

平内中央病院 藤田 健斗さん

Q① あなたの経歴を教えてください(簡単に)

A 自動車会社に勤務していました

Q② 看護師として働こうと思ったきっかけを教えてください

A 他職種で働き10年経過して、看護師の妹の影響を受け資格を生かした看護の仕事をしたと思いました

Q③ ナースセンターを利用した理由は何ですか

A ハローワークでナースセンターを紹介され、看護の仕事を探すなら「ナースセンター」しかないと思いました
親身になって相談に応じてくれました

Q④ 就職先を平内中央病院に決めた理由は何ですか

A 看護実践能力向上のために、Web教育「ナーシングスキル」を活用して、全看護師の教育をしていることや、クリニカルラダー毎の年間の教育が計画され、わかるまで教えてくれるということを知り、教育に力を入れているところが安心して働ける病院だと思いました



Q⑤ 今の仕事について教えてください

A 覚えることばかりですが、周りの先輩看護師に支えられて頑張っています

Q⑥ 今後の目標を教えてください

A 患者様に寄り添える看護師になりたいです

就 業 相 談 ・ 離 職 時 の 届 出 制 度

国立弘前病院と弘前市立病院の統合に伴い、弘前市立病院から依頼があり、就業相談を4回実施しました。病院に出向き相談業務を実施するのは初めてのことでしたが、今後ご要望があればできる限り対応させていただきますので、ナースセンターへご相談ください。

また、看護職の方が離職される時はナースセンターに届出登録することが努力義務となっておりますので、届出登録のご協力をお願いします。

令和3年度看護職の需要及び離職状況調査

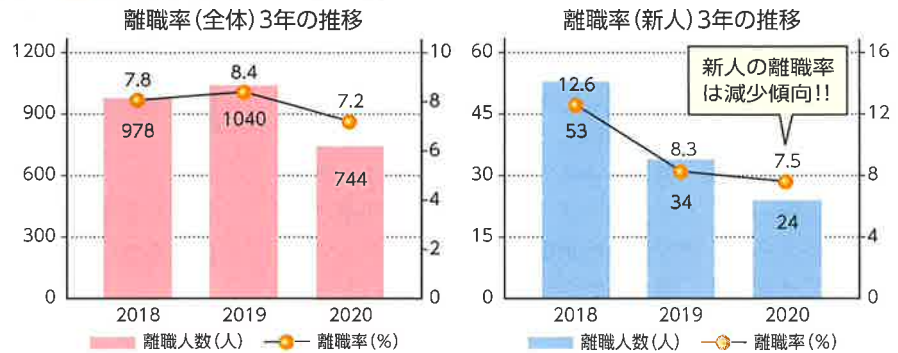
毎年ご協力をいただいております「看護職の需要及び離職状況調査」の調査結果の中から、離職率について報告します。

青森県看護協会・青森県ナースセンターでは、看護職の確保・定着にむけ、さまざまな事業を実施しており、令和2年度からは特に新人の離職防止に力を入れ、新人看護職カフェや看護大学等学校関係者と看護管理者の交流会を開催しています。

その事業が功を奏してこの結果に繋がっている！とはまだまだ言えませんが、調査の分析をしっかりとこない、新人の離職防止に少しでも繋がるよう、今後も取り組んでいきます。

全体の結果はナースセンターHP等に掲載予定です。

■ 看護職の離職(正規雇用)



New 令和3年度キャリア支援セミナー「ママ・パパCafe」

令和3年度新規事業として、11月13日(土)ホテル青森にて「ママ・パパCafe」を開催しました。

セミナーの前半は、仕事・家庭・子育ての体験談を2名のパパナースさんにお話をいただき、交流会では参加者4名が現状やパパナースさんへの質問など活発な意見がありました。「今度はママナースのお話も聞きたい。」との声もいただきました。

後半のハーバリウム体験では、皆さん手際が良く、長いピンセットを上手に使いこなし、素敵な作品を完成させていました。



予告 令和4年度ナースセンター事業

次年度も様々な事業を計画しています。まだ計画段階ですが、ほんの一部お知らせいたします。

看護の日・看護週間

☆PRバスが青森市内を走行します☆

2022.5.11

日本看護協会では2021年～2024年の4年間をかけて、【看護の日・看護週間】の一環として、【看護の日】ロゴマークなどをデザインしたPRバスを運行し、若年層にむけて、看護の仕事や魅力をアピールする事業を実施します。



青森県は**令和4年5月11日に青森市内をPRバスが走行します**。イベント内容については随時お知らせしていきます☆お楽しみに(*'ω'*)

その他各種研修等

★詳細はナースセンターHP等で随時掲載★

- 再就業研修「看護職の腰痛予防対策」
- セカンドキャリアセミナー
- パパ・ママナースカフェ
- 訪問看護ブラッシュアップ研修2コース

支部だより



東青支部

支部活動近況報告について

厳しい青森の冬が到来しました。支部長としての任期が残すところ半年となり、ようやく支部長という役割に慣れてきました。大変ですが、いろいろなことにチャレンジできるやりがいのある職務だと感じています。東青支部は15名体制で、支部長1名、副支部長2名、記録・庶務・幹事各4名で活動しています。事業運営は難しいことも多いですが、メンバーの知識と経験に支えられ、想定外の出来事にも対応できるようになってきました。働く場所が異なる看護職が、チーム



役員会で副支部長と一緒に

を組んで活動するという体験ができていることをうれしく思っています。

記：東青支部長 木村 香

中弘南黒支部

令和3年度秋の学習会開催

11月27日(土)弘前大学医学部附属病院 教育担当看護師長の松田友美先生、弘前大学大学院保健学研究科 教授 小倉能理子先生を講師にお招きし「新人看護師たちとの関わりを学ぶ…日々の悩みを打ち明けよう」をテーマに学習会を開催しました。

初めてのオンライン開催でしたが、19名が参加してくださいました。新人教育・新人看護師の現状、看護学生の傾向・特性について講演いただき、参加者の現状をグループで話し合いました。2022年春も「新



初のオンライン研修

人看護師たちとの関わり」をテーマに学習会を企画しております。ご参加よろしくお祈いします。

記：中弘南黒支部幹事広報担当 佐藤 弥生

三八支部

寅パワーを信じて!!

新年明けましておめでとうございます。去年は止む無く実践報告会の中止と残念なこともありましたが、役員会開催やパネル展への参加と、以前のような活動に戻りつつある状況にほっとした1年でした。今年は春の講演をかわきりに新たな試みのハイブリッド型研修会で準備を進めております。

また、会員拡大に向け、入会の案内配布・ポスター掲示など、学校や施設巡りを計画しております。団結力を強化し、寅年パワーも借りながら、“コロナに負けないぞ！看護職の団結の凄さを信じて”という気持ちで頑張っていきたいと思っております。



入院患者様と作成した作品

記：三八支部役員一同

西北五支部

第2回研修会(2021年10月23日)

テーマは「在宅看護の現状と課題について」、一般・精神・医療的ケア児の3施設からの発表がありました。出席者は89名、第1回研修会より26名の増となり、質疑応答では、活発な意見交換が行われました。アンケート結果から、研修テーマに興味を持ち参加してくれたこと、また今後の業務に役立つと満足度は高く、在宅看護の面白さと大変さが理解できたとの評価をいただきました。何より、看護学生が20数名参加してくれたことが嬉しかったです。今回の研修で、課題を共有し各



参加者も役員も大満足の研修会

施設との連携が深まり、更には在宅看護の人材確保にも繋がることを期待しています。

記：西北五支部長 三上美紀子

下北支部

保健師の役割を知ろう！

令和3年12月4日(土)公済会館において下北支部第2回研修会が開催されました。

今年度から5か年計画で看看連携促進を目的とした研修会を企画し、今回は「行政で働く保健師を知る」ことをテーマに管内市町村(むつ市、大間町、東通村、風間浦村、佐井村)およびむつ保健所から発表してもらいました。

保健師には“人と地域をつなぐ”役割があります。発表者から「誰に相談したらよいか分からない時は保健師に連絡してほしい」という力強い言葉をいただき、



令和3年度第2回研修会「行政を知る」

看護職が連携し地域住民を支えようという気運が高まったのではないのでしょうか。

記：下北支部幹事広報担当 坪田 成美

上十三支部

次年度の上十三支部活動について

今年度も新型コロナウイルスの影響により活動自粛が続いていますが、新しい試みとして「リモート役員会」や「リモート研修会」を開催し、支部としての活動に努めてきました。研修会後のアンケート結果では、「リモート研修のため参加しやすかった」等の意見が聞かれ、今後はより多くの方々に学びの場が提供できるよう、次年度は「ハイブリッド形式の研修会」の開催を検討しております。

新型コロナウイルスによる影響は続きますが、新たな試みへのチャンスと捉え活動して参りたいと考えて



令和3年度 看護ケア検討会の様子

おります。次年度も上十三支部の活動にご協力をお願い致します。

記：上十三支部記録係 滝澤 敬子

公益社団法人青森県看護協会は
協会けんぽ青森支部が
推進する「健康宣言」事業所に
認められました。



健康宣言書を手にする証谷会長(左)と大鱈専務理事(右)

「施設代表者会議」初開催

令和3年12月8日(水)に、会員所属施設の看護管理者・会員取りまとめ代表者を対象とした会議を行いました。青森県看護協会では初めての開催となります。

当協会では、2019年度をピークに会員数が減少に転じている現状を説明し、会員数の維持、そして会員拡大には会員所属施設の理解が不可欠であるため、あらためてご協力をお願いいたしました。



看護技術のオンライン教育・研修に、すぐに導入できる!

eNurseTrainer

eナーストレーナー

2022年春から
NANDA-I
講義動画
収録!

●日本看護学校協議会編集の
指導案や模擬カルテで、
学生の実習をサポート!
(教育機関専用コンテンツ)

- 厚労省ガイドラインに沿った
技術項目リストを収録!
- 施設オリジナルの研修内容も
設定可能です!



無料トライアル受付中!

詳しくは「eナーストレーナー」特設サイトをご覧ください



医学書院

〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23 [WEBサイト] <https://www.igaku-shoin.co.jp>
[販売・PR部] TEL:03-3817-5650 FAX:03-3815-7804 E-mail:sd@igaku-shoin.co.jp

イオンレス™(次亜塩素酸水)
シーエルフイン®

室内浮遊菌
浮遊ウイルスへの
対策

室内噴霧による
浮遊菌除菌、浮遊ウイルス減少

付着菌除菌、付着ウイルスの減少

ドアノブ、手すり、壁や窓など
手の触れるところに

(資料請求先) **NIPRO**
販売 ニプロ株式会社
大阪府北区本庄西3丁目9番3号

2021年5月

仕事をしながらマイペースで学べます!
BS放送やインターネット等、オンラインで学ぶ

放送大学
資料請求・問合せ 放送大学

看護師の特定行為研修
共通科目(講義・演習部分)全科目開講中!!
～省令改正後の新基準にも対応～

放送大学は正規の
通信制大学・大学
院です。
入学は、4月・10月
の年2回。
看護師・准看護師
のみ皆さんのキャ
リアップを応援
します。

青森学習センター
TEL 0172-38-0500
弘前市文京町3 コラボ弘大7F

八戸サテライトスペース
TEL 0178-70-1663
八戸市一番町1-9-22 ユートリー4F